「指示ありがたい」「売り上げ大打撃」

理解と不安 揺れる県民

時短拡大 飲食店戸惑い

新型コロナウイルスの感染急拡大を踏まえ、県が独自の警戒度を4に引き上げると発表した17日、県民には感染拡大防止へ理解を示す声がある一方、今後への不安の声も上がった。新たに22日から営業時間の短縮を求められる大泉、邑楽両町などの飲食店には戸惑いもある。県などに対しては感染対策の強化を求める声が強い。

県内の警戒度4へ

不要不急の外出自粛要請について、大泉町の女性(76)は「県内の感染者が急増する中、それくらいのことをしないと止められない。いい判断だと思う」と理解を示す。

邑楽町の50代男性も「県が指示を出してくれてありがたい」と受け止める。高齢の母と同居するため「年末年始に訪れる予定の人に自粛をお願いしやすくなった。自己判断は難しいところもあるので、今後も具体的な指示をどんどん出してほしい」と求めた。

高崎経済大3年の須藤萌さん(21)＝高崎市＝は「仕方ない」としつつ、サークル活動について「これまでは人数を減らしたり時間を短縮したりして何とか続けていたが、19日以降は休止せざるを得ない」と肩を落とした。

前橋市の美容師、荒川洋さん(47)のサロンでは12月に入り、客足が例年の4割減。外出自粛要請は来年1月8日までだが、10日に成人式を控え、「着付けまでキャンセルになったら大打撃」と心配する。

大泉、邑楽両町では22～28日、酒類を提供する飲食店やカラオケ店などに午後10時以降の営業自粛が求められる。大泉町の「パブエミコ」の営業時間は午後8時～翌午前1時。経営する上村恵美子さん(55)は「お客さんが来始めるのが午後9時を過ぎてから。10時まで、となったら営業しても仕方ない。1週間休む」と語った。

邑楽町で居酒屋を営む男性(71)は「店の売り上げは例年の半分以下。苦しい生活を強いられている」と打ち明ける。一方、感染を拡大させないため要請に協力する考えで、「その分、県には感染をしっかりと抑えてもらいたい」と力を込めた。

前橋市内でバーを営む40代の男性は「東毛5市の時短要請の影響で人が出控えたのか、今週から全く客が来ない。前橋が時短要請から外れて気持ちは楽だが、本音を言えば時短で協力金をもらえる方がプラスになると思う」と複雑な心境を語った。

2020. 12. 18. 上毛新聞 社会面